

第11回西谷地区学校づくり検討委員会

会議概要

開催日時	令和7年(2025年)10月23日(木) 15:30~17:30
開催場所	西谷小学校2階 多目的室
出席者	【委員】12名(欠席)6名 【教育委員会事務局】7名
次第・議事	1 開会 2 会議の成立及び公開について 3 報告 令和8年度特認校制度募集にかかる問合せ状況等について 4 議題 西谷小・中学校における特色ある教育について 5 閉会
会議の主な結果	・西谷地区において、探究学習を体系的に取り入れていく有力な手立てとして、文部科学省も推奨している「国際バカロレア教育」の導入を要望していく ・その調査研究を進めるために必要な費用を、さっそく来年度予算に組み込んでもらうことを願うため、急ぎ市長に対して意見書を提出する ・意見書の文言等については委員長に一任することとし、作成次第、委員で共有・確認する
会議録(概要)	
事務局	【1 開会】 本日は、学校教育部次長も参加している。よろしくお願いします。
委員長	【2 会議の成立及び公開について】 本会議は委員の過半数の出席により成立する。本日、委員18人中12名の委員のご出席により、会議が成立していることをご報告する。本日の議事等について、個人情報等に関する事項はないため、公開とする。本日の傍聴希望者は1名である。 それでは、資料に沿って、報告事項について事務局よりお願いします。
事務局	【3 報告】 令和8年度特認校制度募集に係る問い合わせ状況等について ～資料に沿って説明～
委員長	今の報告に対し、質問・意見はあるか。
委員	新小1について、現在西谷認定こども園にいられている方なのかそうでないのか。また、リストの中にはきょうだい関係があるのかどうかを知りたい。

事務局	<p>表中の新小1について、認定こども園在籍者はおらず、すべて外部からである。資料の14名にはきょうだい関係はなく、すべて別のご家庭である。</p>
副委員長	<p>学校での感触をお聞きしたい。「24谷の日」等を設定していただいて、見学しやすいように色々と工夫をいただいている。来年度に向けて、こういうことができたらいいなとかがあれば伺いたい。</p>
委員	<p>(中学校では)これまでも何人か見学に来られている。広報を見てとか、人づてに聞いてとかである。教頭が対応しており、特別支援学級在籍のお子さんや、学校で大きな集団に馴染みづらいお子さんが来られていると聞いている。</p> <p>本日の午前中も、お子さんとお両親が来られ、体験されていた。保護者が気にされていたのは、「外からポンと来て西谷内部の子とうまく馴染めるか」ということだったので、実際に雰囲気を見てもらった。少し子どもたちと話す機会も持てた。「先輩・後輩関係はどうか」と聞かれたので、「名前呼び合っていますよ」と答えた。バスのことも気にしておられたので、代替手段を検討中であることを伝えた。</p>
委員	<p>小学校では、現小学6年生の見学があり、中学に入ってどんな子と一緒にするのかを見に来られ、今日も体験されていた。</p> <p>一昨日も3件ぐらい、今日も、2、3件対応した。半分以上が特別支援学級という印象である。特別支援学級は8名までと決まっているので、少人数という環境を求めてこちらに来られたとしても、こちらの人数が増えるので変わらないことになるのではと思う。</p> <p>説明できる家庭についてはしっかりと説明している。両親共働きで送迎を困難に感じておられることについてはどうすることもできないが、とにかくお子さんを連れてくるように、お子さんの意思が大事であること、やはり無理だと言ってすぐに元の学校に戻ったりするのはお子さんのためにならないことを伝えた。</p> <p>まだ就学意思をはっきりと示されたご家庭はない。</p>
委員長	<p>両校長からの報告を感謝する。まだ募集期間は続くので、対応等でいろいろとお世話になるがよろしく願いしたい。</p>
副委員長	<p>さきほどおっしゃられたように、やはり子どもが来たい、ここで学びたいと思うことが大事。そのような体験の仕方とか仕掛けを今後作っていったらよいと思う。</p>
委員	<p>保護者の送迎があればベストではあるが、それでも一度、公共交通機関で8時半までに着くように来てみる、保護者は切符を買う等も見守る、バスに乗ってきて、学校と一緒に授業を受けて、給食を食べて、終わりの会をして、みんなと一緒に帰る。そこまで体験して、それを毎日できるか、おうちでしっかり子どもと話をしていただきたい。体験入</p>

委員	<p>学を必須にして欲しい。大人と子どものどちらも納得していなかったら毎日続かないので、そういったところは大事にして欲しい。</p> <p>小学校も体験しないと受けないと決めている。そして、そのためには前もって連絡をもらわないと難しい。複式の教科書など、準備が要る。時間割も伝える必要がある。</p> <p>体験は2回してもらうことにしている。1回目は、1時間か2時間で、馴染めるかどうか程度。2回目はほぼ1日。だから給食を発注するためにも急には無理なので、何営業日か前に把握する必要がある。</p> <p>一昨日と今日は、入れ替り立ち替りで来たので、それぞれの学級も大変だった。子どもたちも浮足立つ。24谷の日以外でも受け入れるが、いずれにせよ前もって連絡をもらう必要がある。</p> <p>いつでも受け入れられるよう、各教室に机も2脚ずつぐらい余分に入れており、座ってもらうことができる。</p>
委員長	<p>受け入れについては非常に現場（学校）に労を担っていただいている。我々もその辺を支えていけたらと思う。</p> <p>それでは、他になれば議事を進めさせていただく。議題について、事務局から願います。</p>
事務局	<p>【4 議題】</p> <p>西谷小・中学校における特色ある教育について</p> <p>昨年8月に本検討委員会からいただいた意見書の中で、西谷地区外からの子どもたちが西谷小・中学校で学びたいような、西谷の資源を活かした魅力ある教育活動の充実に努めていくことが求められていた。これを受けて、現在、学校では、地域の自然や文化を取り入れた、小規模を活かした、教育活動を展開し、地域と連携しながら、特色ある教育の実現に向けた取組を進めているところである。</p> <p>一方で、昨年度と今年度、特認校制度の児童生徒の募集を通じて、就学に興味を持たれている方のお声を聞いていると、ほとんどの方が少人数という教育環境に魅力を感じているような状況である。</p> <p>このような状況を踏まえ、さらなる特色ある教育を進めるため、今後の方向性について皆様とともに検討を進めていきたい。</p>
委員長	<p>特色ある教育をどう進めていくかというのは、非常に大きなテーマであった。こうして今特認校が進んでいるが、この特色ある教育をどうしていくかということについて、意見交換していけたらと思う。副委員長から提案があると聞いているので、説明をお願いします。</p>
副委員長	<p>今日この機会に整理をさせていただこうと思い、事前に資料を事務局の方にお預け</p>

委員	<p>していた。お手元の資料をご覧ください。</p> <p>小学校・中学校、そして子ども園も含めて、15年間を通して特色を考えていくというのは、とても強みになるのではないかとずっと考えていた。</p> <p>15年間を通して、『遊び～からだ・こころ・感覚、五感すべてを大切にした育ち～』からスタートし、それをベースにしながら、小学校の6年間で『学び～基礎学力+新たな教育スタイルに挑戦～』、そして中学校3年間で『考え動き発信する試み～プレ探究～』。</p> <p>この「探究」とは、ここ最近文科省の方も随分と力を入れており、全国的に、高校の教科としての「探究」、小学校や中学校では「総合」という科目として、文系理系の枠を取り払い、総合的な学習、子どもが主体的に学べるような学びの新しい形を模索しようという授業である。</p> <p>この資料の内容は新しいことではなくて、すでにもう西谷の中で、園小中で十分取り組んでいただいているものである。</p> <p>子ども園の6年間では、自然との触れ合い、自由な遊びや自由な表現、動きを大事にしながら、お散歩や思ったように体を使ってみる中で、コミュニケーションをとったり、生活の色々な力をつけたりしていく。</p> <p>小学校の6年間では、1・2年の生活科でまち探検、3・4年は丸山湿原、5・6年は里山保全活動やちまき作りなど、地域の方々とともに作っていく授業。また複式授業を活かしたガイド学習（子どもが問いを元にリードする主体的な学び）。</p> <p>中学校3年間では、様々な世界で活躍している方々（BOROさん、山形機長等）との出会いを通じて、自分の進路を見つめていく。英語祭や生徒会活動、子ども議会での活躍、しくじり先生（大学生たちが関わってくれている放課後自習室）の取組。また「西谷を深める」ということで、ちまき作りや里山ラボさんとの休耕田復活プロジェクトなど。</p> <p>そしてこれらに加えて、西谷というローカルなものに加え、幅広い視野を持てるように国際的、グローバルな視点をとということで「世界を知る」。</p> <p>先日、森市長が西谷に来てくださった。森市長ご自身が、非常に対話的なコミュニケーションに長けた方である。おそらくこれまでのキャリアの中で国際的な活動をずっとされてきた方だからだと思う。</p> <p>「対話的な学び」、「自分の問いを持って考えて進めていく学び」というのが、まさに「プレ探究」でやろうとしていることであるので、市長にリソースパーソンとして来ていただき、公開特別授業をしていただけたら、ローカルとグローバルが繋がるととても良い機会になるのではないかと、また特認校制度のアピールにもなるのではと考え、このような企画書を書いた。</p> <p>そういうわけで、すでに取り組んでいる園小中15年間の連携した取組を、特色としてアピールしていくのはどうかと考え、提案させていただいた次第である。</p> <p>地域の方に色々とお手伝いいただきながら既に取組を進めていることをこういうふうにとまとめていただいて感謝する。</p> <p>私は教頭時代に2年、校長で4年、現在西谷で計6年目になる。南部の学校と比較し</p>
----	---

てみて、この西谷の学校の強みは何かと考えると、たくさんある。

中でも「少人数」という強み。人を増やそうと思っではいるが、青天井にマンモス校になったらよいとは思っていない。この少人数の強みを学校でどういうふうに生かしていったらよいかを考えた。職員から「こういうことをさせたい」と提案があがることもあり、大分浸透してきたなと思っている。

校長として毎年修学旅行に同伴するが、1年目は児童が17人だったのでバスで行った。2年目から人数が減り、バスだとあまりにも高額になるので新幹線に変える決断をした。子ども料金なのでバスより安い。新幹線乗車や大きな駅を子どもが経験することの中で得られることはたくさんある。

今年は女子5人。広島でどこを回りたいか、子どもたちが調べ、考え、優先順位をつけさせた。女子旅になってしまわないように、担任として学ばせたい「修学」部分もふまえ、それを総合的に見て場所をプロットすると、それぞれが少し離れたところにあり、電車で行きにくい行程であった。

そこで、自転車に乗ることにした。雨が降らなかったのうまく計画通りにいけた。大きな学校では自転車で広島の街を走って移動するなんてできない。自転車に乗って、行かせたいところに行き、また子どもたちが絶対見たいと言った広島城、そして平和公園へ行った。バスでは窓が閉まっており、「開けないでください」と言われる。しかし、自転車なら人の息遣いや街の匂いといった、そういう空気を感じられる。

2日目の宮島でも、子どもたちが水族館はやめてでも、ロープウェイに乗りたくなった。360度の景色をどうしても見たいと。ではどうすればいいか。結局、帰宅時間を1時間遅らせた。もちろん大人が責任を持って連れていけないといけませんが、子どもがやりたいことをどうしたら実現できるのかということを考える。子どもたちも言った限りはやらないといけない。車道を走らなければいけない場面も、歩道でも人が多い場面もあった。道中多少のハプニングもあったが、思い出の一つとなった。

このように、「子どもたちと考え、実現させていく修学旅行」というのも、探究のひとつとして表に加えられるのではと思った。

また、最近始めた取組をもう一つ紹介する。帰りに見ていただいたらよいが、この廊下の一番端にパーテーションで囲った、机1個の部屋がある。そこは何のためにあるかというと、授業中に、学校に来て気分が乗らないとか、何かトラブルがあって、少し興奮してなかなか落ち着けないという子が、そこに行って少し落ち着くような部屋としている。大人もそうであるが、落ち着くにはできるだけ狭くて静かなところが良い。別部屋を用意するとなると誰か大人がそこにつく必要も出てきて難しいが、廊下の一角なら、と作った。子どもたちが「コスモスの部屋」と名前をつけてくれている。

パーテーションはホワイトボードでできているので、絵が描ける。むしろしゃべったときにガーッと書いているかもしれないし、何か自分の好きな絵を描いて落ち着くかもしれない。窓の方を向けているので、空とか里山が見られるようになっていて、それで落ち着く子もいる。

何かあったら「ちょっと行っておいで」と促すと子どもは行く。ある程度したら自分のタ

委員	<p>タイミングで出てくるように言っている。例えば、こちらが「もう1時間もいるから出ておいで」とか、「30分過ぎたよ」とか、そんなことは言わず、自分のタイミングで出てくる。大人の言う通りにすることも大事だが、自分自身で考えて、「このままでいたら皆とうまいかないな」と思ったら自分でそこへ行く。でも、元気になったからまた自分で戻る、というふうに。</p> <p>自分で考えて行動できるというのは口で言うのは簡単だが、実際にそういうふうに、少しずつ日頃の学校生活を通してやっていく。修学旅行とかそういうイベントごとの子どもが前のめりになっているところをうまく使ってそういう力を蓄えていけば、高校生になって大人数で育った子と一緒にしても活躍できるだろうと、そんなイメージを描いて現在取り組んでいるところである。</p> <p>中学校の取組についても上手にまとめてくださり感謝する。</p> <p>子どもたちに何か夢や希望を持ってほしいと考えた。山形機長を招いたのも、パイロットになりたいという子がいたからである。</p> <p>大きな学校だと調整が難しいこともここではできる。里山ラボさんの協力で稲作プログラムができ、本当にありがたい。1年生がお世話になって、米を作り収穫をした。2・3年生は修学旅行やトライやる等があるので参加は叶わなかったが、「みんなで食べたい」という声を受けて、全学年で11月の期末テストが終わった日にお米をご馳走になりに行くことになった。このように地域の方々のご協力が大変ありがたく、感謝している。なかなか、中学校でこのような例はない。気づけばいろんな人が繋がり、いろんなイベントをやるようになっている。</p> <p>中学校としてはやはり進路のことがあるので、勉強のことが課題である。地域が動いてくれて放課後自習室の取組ができている。また家庭での声かけも大切である。その3つが連動すれば、学力も上がっていくのではないかと考えている。</p> <p>「探究」については、時々テレビのニュースでも出てくるように、大学の入試が我々の時代と全然違う。知識を問うのではなく、プレゼン能力とか学んだことをもとにどう解決していくかというようなことが、次の学習指導要領でも重視される。義務教育から社会に出ていく間の高校で、個に応じた主体的なその学び。それを先んじて中学校でもというところ。やっていないわけではないので、明日の文化発表会でまた子どもたちの様子を見ていただいたらわかると思うが、今後進めていく部分もある。</p> <p>色々と調整が必要で、休日との兼ね合いもあるので、バランスを取りながらやる必要はあるが、色々な人から学ぶということ、私の代だけでなく、今後も続けてほしいと願う。中学にとどまらず、小学生や保護者と一緒に講演会を聞くといったようなことが、ここ西谷なら可能である。</p>
委員	<p>展開図をありがとうございます。</p> <p>私はこの4月から来た（何十年も前に2年だけいたが当時は幼稚園だった）ので、この地域の特色というのは少しまだ把握しきれてないところは実際あるが、まず初めに、</p>

<p>委員長</p>	<p>資料にある15年間、地域の方が温かく見守ってくださって育てていってくださっているということが、この図から見てもよくわかり、感謝する。</p> <p>「自由な遊び」とは、多分、外から見たら、ただ楽しそうに遊んでいるだけに見えるかもしれないが、「遊び」というのは深いものがあり、私たちは「好きな遊び」と言っている。それは「子どもたちが各自で好きなことを見つけて、自分から取り組む」という意味で、自由に何でもやっていいよと遊ばせているのではなく、そこには教師の意図性がある。</p> <p>いろいろな「気づき」、こんな自然を取り入れて遊んで欲しいとかいう思いがありつつ、選ぶのは子どもたちで、子どもたちが主体的に、自分で「じゃあ何がいる。何をを用意したらこれが遊べる」、「これを作りたいから、どんな素材がいる」とか、自分たちで考えて遊んで作り上げていっている。そういう「遊び」だということをご理解いただければと思う。</p> <p>地域の特色として「自然との触れ合い」はもちろんだが、ここでは「地域の人との触れ合い」で子どもたちは大きくなっているとすごく思う。</p> <p>6月頃に、宝山寺のアジサイを見せてもらったが、本当に見事だった。他の地域では見られないほどで感動した。園児がそこで遊ばせていただいたり、お寺の方に説明していただいたりして、最後に自分が好きな一輪をもらい、大事に大事に持ち帰って、聞いてきたことをおうちの人に話す。「お母さんが好きな色をもらってきた」とか、そんな家族のコミュニケーションがここでは体験できる。</p> <p>もうひとつは稲刈り後の田んぼを踏んで遊ぶ「ポキポキさんぽ」。ぽきぽき音がして楽しいお散歩という、南部で田んぼのない地域ではできない体験である。感触であったりそのにおいだったり、そういうものを大事にして遊べるところが、心の豊かさが育つ部分だなと思う。それも地域の人と繋がれていないとできないことなので、地域とのつながりを表に加えていただけるとありがたい。</p> <p>特色ある取組を、具体的に聞かせていただいた。それが本当に子どもたちの教育の中で大事であるということも皆さんも感じられているんじゃないかなと思う。</p> <p>だから、やはりこの都市部の学校ではない特色のあるものを、今後どういう形で、西谷で続けていけるかというところが、非常に大事ではないかなと思う。</p> <p>もう自分たちの受けた教育とは全然違うが、自分たちが子どもときの経験というのは、今もずっと生きている。学校で勉強したこと、勉強の内容ではなくて、ふるさとで経験したことが今もずっと残っている。人との触れ合いもそうである。ただ単に知識だけの教育ではいけないなというのを体験的に知っているからこそ、やはり何が大事かというところを、やっぱりこれから西谷で花咲かせていきたいと考え、皆さんのご意見を聞かせていただいた。</p> <p>こういうお話の中で、何か教育委員会で、考えておられることがあれば発言をいただきたい。</p>
------------	---

委員	<p>特色ある教育をこうして進めていくと、やはり裏付けになるような予算が必要な部分がある。</p> <p>さきほど、修学旅行で自転車に乗ったと話したが、職員の自転車を借りるお金は県から出ない。ということは、自己負担で自転車に乗ることになる。初年度は珍しいから乗ってみようとなっても毎年はそうはいかない。いろいろ相談して教育委員会のルールの中で何とか融通した。</p> <p>また、市のマイクロバスがなくなったので、ここはタクシーを出してもらったりしているが、その費用も結構かかる。市が負担してくれているとはいえ、移動するにもそういうことがやはり必要なので、その辺の少し柔軟な予算編成を、特認校のために使える予算みたいなものがあると、色々なことがもっとスムーズに実施しやすいかなと思っている。他校とのバランスもあるが、そういう予算に対するニーズをお伝えさせていただく。</p>
事務局	<p>本日、副委員長より提供いただいた資料を事前にいただいており、③「子どもによる主体的探究的学びを対話的方法で実践するために」の2行目「従来の知識インプット型の教育スタイルだけでなく、主体的探究的な学びの実践校として、宝塚市の教育の実験的な場となっていきたい」というところ、そのあたりの具体的な提案ができればと考え、意見交換の材料として資料を用意したのでご覧いただければと思う。</p> <p>～資料に沿って説明～</p> <p>「これまでの授業スタイル」とあるのは、西谷のということではなくて、世間一般的にということと記載している。「深い学び」というイメージに学校ごと、教員ごとにばらつきがあるのが実態である。</p> <p>これからの授業スタイルとして、4つのサイクル（課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現）を紹介する。これまではインプットすることが中心だったが、これからはアウトプットである。多様な知識を関連付けて概念化していくということが必要になってくる。これが質の高い「探究的な学び」である。子どもたちが自発的に学び課題を設定し、課題解決に必要なスキルを身につけていこうとする、そんな学習スタイルが今後必要になってくる。探究の学習を協働で行うことによって、人との関連も持った中で、概念化に結びつけていくということである。</p> <p>こうした探究学習というのは学力だけではなく非認知能力や、社会参画意識も向上すると言われている。「探究的な学びをすると、基礎学力が低下するのではないか」というような心配もあるが、決してそうではなく、こうしたことから色々な関連付けて学びが広がっていくので、基礎学力にも結びついて全体的な学力が上がっていくと考えられる。ただし、学習量が増えていくので、ある意味負担に思う子もいるかもしれない。そこは個々に応じて課題の設定等ができればと思っている。</p> <p>これが「探究的な学び」である。</p> <p>そこで次に、国際バカロレア教育（IB：インターナショナルバカロレア）についてお伝えする。これは、探究学習がシステム化されたものである。</p> <p>～資料に沿って説明～</p>

	<p>このような IB 教育を実践するためには、IB 認定校になる必要があり、IB 機構からの公式認定を得るためにはプロセスが要る。</p> <p>関心校から候補校となり、様々な研修を受けて、きちんと探究型学習ができる仕組みができた段階で認定校となる。研修は職階別に、この IB 機構から提供される。</p> <p>時代の流れで探究型の教育が変わっていく中で、IB 機構が伴走してくれるということである。</p> <p>関心校の時点では費用がかからないが、候補校・認定校になると、定期的な研修への参加あるいは講師の派遣があり、費用が発生する。</p> <p>2030年に改訂される学習指導要領では、この「探究」という内容が中心的に出てくるため、市としても研究しているところであり、実は8月に高知県香美市がこの国際バカロレア教育に先進的に取り組んでおり、視察に行ってきた。</p> <p>その際、費用面について尋ねると、候補校の段階で年間約300万円、認定校になると少し額が落ちるが、それに近い金額が今後継続してかかるということである。その間ずっと研修を受け続けられるということである。そうした費用もかかるため、ここへ進むためには予算的な課題のクリアが必要である。</p> <p>この探究型学習というのは、子どもの間だけではなく、社会人になってからも、ビジネスの中でも非常に役立っていくと言われている。</p> <p>社会においても、指示待ち人間、マニュアル人間でなく、主体性や実効性というものを企業も重視するようになり、社会の方でも探究型の研修に軸足が移ってきている。</p> <p>そういうわけで、子どもたちにおいてもこの探究型に早く移行することが、これからの子どもたちのよき育成に繋がるというふうに思う。</p> <p>従って、教育委員会としても、副委員長の提案と同様に、この探究型を進めていけばというふうに考えている次第である。</p>
委員長	<p>これまでに聞いたことのない国際バカロレア (IB) という教育のお話をいただいた。</p> <p>時代の流れで、新しい時代に向かっているということは、最近私もよく理解してきた。「探究型」の必要性は本当に皆が感じておられ、またそうでないといけないのだなということ、今事務局に説明いただき、また副委員長からもこういう提案を挙げていただいた。</p> <p>まだまだ先の長いことであるが、西谷で特色ある教育をと言っている中で、こういう教育のあり方に、まずは皆で関心を持つということを共通認識とし、新しい目標に向かいたいと考えるが、いかがか。</p>
委員	<p>事務局に説明いただいた資料の2「これからの授業スタイル」の(1)「急速な社会の変化の対応」というのは子どもたちだけでなく我々大人へも課題である。(2)「グローバル化に伴う多文化共生社会の到来」ということで、この西谷においても、今まち協の方で移住促進・空き家対策をしており、外国の方が入ってこられるということは起きつつある。我々まち協の方も、この辺を勉強していかなくてはと、近々予定しているところ</p>

委員	<p>である。</p> <p>特色ある教育ということで先生方には大変な面があるかもしれないが、先進的に西谷で始めていけたらと思うが、皆様の意見があるだろうから伺いたい。</p> <p>新しい取組をご提案いただいて、大変興味深いことであるが、1点、直接バカロレアのことではないが、申し上げたい。</p> <p>学校運営には当然、一番子どもに近いところ、毎日授業をしてくれる先生がいなくていけない。特に、今後の交通の便が課題である。これは子どもだけでなく、大人、職員でもある。</p> <p>また、何も私は特別な能力を要求するつもりはないが、一番大事なのは、子どものことが好きで、こんなことを子どもたちに力をつけさせたいという熱意、それを持って、西谷の小学校・中学校で働きたい、自分はこういうところが得意だからそれを生かしたいというような先生を、特色ある教育を進めるために、予算だけでなく、人員配置を考慮いただきたい。</p>
委員	<p>私は小学校でずっと勤務してきたが、本職は社会科で、中学校と高等学校の社会科の免許を持っている。社会科では「問題解決的学習」という方法がある。まず社会の課題を見つけ、解決に向けて調べ学習をし、それをまとめて深め、最後に発表する、広めるというそのサイクルでやっていくのが問題解決的学習である。このバカロレアも多分それに近いことをやっていると思うので、社会科の自分にはイメージしやすい。</p> <p>しかし、皆がそういうイメージを持つためには、ここにいる皆さんも、資料を読み込むだけでなく、実際どうやっているのかを見るという関心、ここから始めていき、「なるほど。こういうことなら、既にやっていることに少し加えるだけ、と知る。突然180度方向転換のようなことを聞かされると教職員も戸惑うが、そうではなく、既にやっている大切なこと、それを中心に持ってくるだけと捉えればやりやすくなるので、その辺のところを、まずは我々が理解し、そこから始めていって、広めていければ。そういった順序・段取りで進めていってもらえたら助かる。</p>
委員	<p>まずお聞きしたいのがさっきおっしゃっていた300万円とは誰が持つのか。今、行政がすごく厳しい状況で、行政でも学校でも出せないから地域でどうにかと言われたら困る。あと、研修を受けてもその先生がコロコロと変わってしまう状況や、研修のために先生が不在で人員不足といった状況が起らないように考えていただきたい。</p> <p>すごくいい取組だろうと思うから、額面通りというより、「遊び」の中に取り入れていくとか、無理のない形としてほしい。</p>
委員長	<p>予算のことは非常に心配である。今やっていることがそういう形で花開いていくためには、その理解を深めるためには、理解いただいて予算をつけてもらわないと、これは進んでいけないと思う。そのためなら会として意見書を出していきたいが、いかがか。</p>

事務局	<p>この300万円という費用が高いか安いかわかるのはいろいろ評価があると思うが、西谷においては、学校に特色を持たせて活気をつけていくことが地域振興という目的にもつながり、また公共交通の課題解消に向けても、とても重要であると考えている。</p> <p>ただ、時期的な問題があり、今時点で令和8年度当初予算案は固まりつつあるため、一定の視察や研修に来年度中に行くため予算を求めるなら、11月上旬ぐらいまでに意見書を出していただくことが必要となる。</p> <p>であるから、今言っていた色んな課題は意見書の中に入れていただき、市としての対応、教育委員会としての対応、またこの委員会の中で検討していかないといけないことを整理しながら、今後進めていくことができればと思う。</p>
委員長	<p>なるかならないかは別として、まずは動いていかないと、なるものもならないのではないかと、そのように思う。武田尾駅のエレベーターも、実は絶対できないと言われていたが、それを可能にしたのは、やはり熱意だった。だから強い気持ちで要望したい。</p> <p>今日の会議の結果やこれまでの流れも踏まえ、先ほどの人的配置の面も含めて、もしよろしければ事務局にも協力いただきながら意見書案としてまとめたいと思うが一任いただけるか。作成次第、皆様に共有・確認いただく。提出の際は、地域振興の意味合いから、まち協会長にはご同行願いたい。当然、皆さんも都合がつけば是非一緒にいただけたらと思う。意見書の提出について決を採らせてもらおうと思うが、いかがか。</p> <p>～全会一致で異議なし～</p>
委員長	<p>市長に意見書を渡す形になるか。</p>
事務局	<p>そうなる。</p>
委員長	<p>市長には非常に西谷のことに興味・関心を持っていただいているので、可能性はあると期待して、頑張りたいと思う。それでは委員会の総意として、スピード感を持って取り組んでいくのでよろしくお願いします。</p> <p>【5 その他】</p> <p>他に、何かこの場で、共有したいということはあるか。</p>
委員	<p>外部から講師を呼んで、講演をする子どもたちに、学びを提供しようと思った場合、その予算がない。とてつもない講師を呼んだりとか無謀なお金を要求するつもりは全くないが、やはりある程度、小規模特認校として、講師を呼んだりとか、特色のある授業をするために、地域の方々にたくさんお世話になっているが、やはり幾らかの予算を取っていただければ嬉しい。</p>

委員	<p>本当にこれからの教育は今までの教育と違って、それこそ探究的に物事を色々やるには、やはり先立つものなければ、「諦めてね」となってしまう。もちろんこれだけしかない中でどこまでできるかという探究も大事だが、初めから「無理」と言わなければならないようなことがないようにしたい。小回りの利く教育ができるここだからこそ、色々なことをやりたい。いや、やれると思っているので、そこは是非ともご協力・ご考慮いただきたい。</p>
事務局	<p>予算面についても、意見書が出れば、それに基づいて、しっかりと獲得に向かって動いていきたい。具体的な動きがどこまでできるかわからないが、先生自身が変わっていないといけない、スキルを身につけていかないといけない、そのための研修費は最低限確保していきたい。</p>
委員長	<p>【6 閉会】</p> <p>いろいろとご意見を感謝する。</p> <p>それでは本日の議題はすべて終了とさせていただきます。熱が入り30分オーバーした。これをもって、会議を閉じさせていただきます。事務局にお返しする。</p>
事務局	<p>それでは意見書案や、意見書提出の日程、次回委員会の日程については、また電子メールで調整させていただくので返信をお願いします。</p> <p>長時間にわたり、ご協力いただきまして誠にありがとうございました。</p>